

唱歌の響きあり、  
地域に愛され  
がけをわたり

(さちわ)

法中校長室通信

# メタセコイア幸う!

R6,3,22

文責:校長 船越 路央

## ♪ ... みたいに美しくなりたい!!

昨年末の話です。3年前にご退職された元高校の校長先生(兵庫県在住:Sさん)が、突然本校をふらっと訪問してくださいました。

「あんた(船越)が校長になってからずっと訪問したかったけど、コロナ禍でなかなか来れなかった。..今日はようやく来れたわ。少し校内を歩いていかや?」

「勿論です。共同学習として、生徒同士が問題を出し合ったり、互いに質問している様子もぜひご覧になってください。」

私はSさんといっしょに校内の施設や教室を説明しながら歩いていると、突然ある場所に足を止めて、次のようにおっしゃいました。

「雑巾の並べ方が美しい!...これだけでどんな学校かがわかる。」

HIZAGAITAINAN  
TEKANKEINAISA~



地域の方からメタセコイア通信の感想をハガキでいただきました。(喜)



本校ではある意味「当たり前」の光景だった雑巾置き場に目を止められ、評価して下さったことが本当に嬉しかったと同時に、こんな「ものの見方」もあるのだとあらためて考えさせられました。

雑巾そのものは、廊下や教室をきれいにしてくれる道具にすぎませんが、そこに「掃除魂(マインド)」がないと、美しい学校にはなりません。汚れてぼろぼろになりかけた雑巾を大切に保管する心。そして結果として美しく「魅せる」ことも法中プライドなんだ、と思いを新たにしました。

ふと、80年代にJ-popで活躍したザ・ブルーハーツの名曲『リンダリンダ』を心で歌っている自分に気づきます。

「♪ どぶねずみ...みたいに美しくなりたい...」

一般的に世間では汚い?と言われていたものに価値を見つけ、それを「美しい」と感じる美学。本校は来年度も、引き続きその心・考え方を大切にしていきたいと思えます。

## 入院コラム ~フナコ氏、調子に乗って注意される~

2月21日。夜中の3時過ぎだった。ビキッと、いや実際には擬音化できないのだが本当にそんな感じで左足に激痛が走った。一度立とうと思うが一步も前に進めない。そのうち腹ばいでも仰向けでも激痛は止まず、七転八倒とはこのことだと失笑してみるが現実是不変。6時になって、ついに人生三度目の救急車を呼んだ。ものの5分で救急外来に到着。整形外科のDrからいくつか質問されたが、4時間近くは痛みで記憶がない。ようやく緊急の注射と投薬、MRIで激痛の原因を知る。

腰部脊柱管狭窄症とヘルニアによる座骨神経症。もちろん入院は確実。...さてよ、これは困った! 卒業式に間に合うのか? じたばたしても始まらないが、投薬による副作用でめまいと吐き気が止まらない。翌々日ようやく少し楽になり、歩いてみるが、やはり数歩で限界。...すると廊下に素晴らしい乗り物を発見した。歩行者である。4つのコマがついているので痛い左足をキャストに乗せて右足で蹴るとすっくと進む。これはいい。流行りのボードに似て斬新な感動がある。その時である。後ろから看護師さんの大きな声が病棟に響いた。「そんな乗り方はやめてください。危ないです!」そりゃそうである。時速3kmといえども患者さんにぶつかる可能性がある。反省と挑戦した満足感と挫折感がいっしょに心を支配したまま、また左足をかばう日々が続く。

(結論:卒業式に間に合ってた。病院のスタッフの皆様、ありがとうございました。)

生徒の  
名言

あー、小学校から大谷グローブも借りることは  
できませんかあ? キャッチボールしたいんです! (2年)



## 25 卒業式式辞 (一部省略)

3月に入ってから、なごり雪が舞う今季でしたが、柔らかな春の風が皆さんの旅立ちをお祝いしているような今日の良き日。ご多用のなか、多くの地域の皆様のご臨席を賜り、第七十七回の卒業式が挙行できますこと、高壇からでございますが厚くお礼を申し上げます。

卒業生の皆さん、あらためて卒業おめでとう。先ほど一人ひとりに手渡しした卒業証書は、「多様性社会を生き抜く基礎となる力が身に付いた」という証明書でもあり、人生を歩む許可証でもあります。

思いおこせば、思春期のまっただ中の中学校時代。・・ジェンダーの考え方や、部活の地域移行など、従来の価値観が変化し、戸惑いがあった三年間だったと思いますが、皆さんは「法中プライド」を継承し、学校リーダーとしての姿を見せてくれました。私たち教師にとっても頼るべき大きな存在でした。とはいえ、今日この日を迎えるまでに、多くの方々からお叱りや助言もいただき成長できた日々も宝物として覚えておいてほしいです。

■皆さん、私は忘れません。大好きなお昼のドッチボールで暴言が続き、中庭での活動禁止にしたとき、関係者全員の署名を持って校長に直談判しに来た日を。

■皆さん、私は忘れません。大雨の中の体育祭で、やりきった笑顔を。

■皆さん、私は忘れません。給食の場所がクラスバラバラになったコロナ禍。愚痴を飲み込んで「仕方ないへん」と言いながら会話をシャットアウトし、我慢し続けた日々を。

■皆さん、私は忘れません。法中の歴史上、最後の学ラン・セーラー服に誇りを持っていたことを。

■皆さん、私は忘れません。かっこ悪さやとまどいを超越し、本気で歌った三年生の合唱コンクール。ぎりぎりまで練習し、円陣を組み、本番は魂を込めて歌い上げたあの瞬間を。そして、「この仲間なら信じられる」と言えるようになった成長の姿を。

いよいよ進路を自己決定する時期になって、特色入試に挑戦する姿や、昼休憩に互いに問題を出し合ったり、自主的に面接練習をする姿も見られました。「受検は団体戦で乗り切る」という気持ちを態度で示し、最上級生として輝く皆さんは本当にかっこよかったです。私はここで固い固い蕾になれたことを確信できました。

そんな皆さんに、短い四行の詩を紹介します。入学式で「蕾」という漢字を見せたのを覚えていますか。花が大きいとか小さいとか色がどうか、比較しない美学を身に付けた皆さんならこの詩がわかるはずです。

国語教育者 芦田恵之助(あしだえのすけ)の詩

バラ二本 / 一本は花大にして一本は小 / 大は大を誇らず小は小なるを恥じず / 力の限り咲けるが美し

56人の皆さんは、それぞれが異なる個性と特技を持ち、得意なことも、苦手なこともありました。むしろ凸凹があるから、自分らしく生きられるのだと思います。どうぞこれからも自分らしさ、友だちの“あなたらしさ”を尊重し、喝采できる人に育ててほしいと願っています。

保護者の皆さま、お子様のご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。この三年間、法中教職員スタッフ一丸となり、一人一人の成長を見守り励まし、できることは精一杯の努力をしまいましたが、至らぬ点も多かったと思います。しかし、学校の教育を信頼していただき、多くのご支援を経て、三年間教育ができました。今日をもって大切なお子様を皆様のもとにお返しいたします。

さあ皆さん、最後に忘れないでください。あなたは、本当に愛される存在であったこと、そしてあなたの「未来こそが夢」だと言える大人たちがここに集っていることを。

「草冠に化ける」と書いて花。いよいよ固く栄養たっぷりの蕾というあなた自身を開花させるときがやってきました。どんな風に化けるのか、咲き誇るのか。今からワクワクします。そしてどうぞ、自分の選んだ最善の「道」を歩んでください。

Go Ahead the way that you believe! 私たちはずっと、ずっと応援しています。

令和六年三月八日  
南部町立法勝寺中学校  
校長 船越路央